

平成28年11月14日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス  
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢  
(コード2388 東証 J A S D A Q 市場)  
問合せ先 開示担当 小竹 康博  
(TEL 03-6225-2207)

### GL、第3四半期において純利益過去最高を更新、第4四半期は更なる利益拡大を見込む

当社の重要な子会社でありますSET(タイ証券取引所)上場のDigital Finance会社Group Lease PCL(以下GL)は、第3四半期 業績発表の内容について、本日プレスリリースを公表いたしましたので、その内容を日本語にてご紹介いたします。

(以下、GL社公表のプレスリリースの翻訳)

2016 年11月14日

件名：GL、第3四半期において純利益過去最高を更新、第4四半期は更なる利益拡大を見込む。

タイ証券取引所上場企業でデジタルファイナンス事業を手掛けるGroup Lease Public Company Limited (GL) は、継続的な事業拡大の成果により第3四半期(9月期)において前年同期比で73.29%増及び過去最高となる260.41百万タイバーツの純利益を発表した。

今第3四半期の最高益達成により、最高純利益の更新は8四半期連続となった。GLは、タイ王国をベースとしたファイナンスサービス会社として初めて、極めて高収益なビジネスモデルである”Digital Finance Platform”を独自に開発し、これまでに隣国であるCLMV(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)地域、インドネシア、そしてスリランカへの進出に成功してきた。

GL会長でCEOである此下益司氏は、第3四半期の純利益は直近で行ったいくつかの買収案件での一時的な費用計上がなければ、本来300百万タイバーツ近くまで上っただろうと述べた。また、それらの買収案件において、コロンボ証券取引所上場の有数かつ高収益ファイナンス企業Commercial Credit & Finance Plc (CCF)の株式29.99%の取得は、次の第4四半期から早速、GLへの大きな利益貢献が始まると加えた。CCFは今年度24百万米ドルの利益を見込んでおり、GLは第4四半期から同社の利益に対して、持分29.99%の利益を計上する。

GLエグゼクティブボード会長である此下竜矢氏は、第3四半期の利益は、インドネシアにおける戦略パートナーであるJTrust Asia Pte. Ltd. (JTA) への総額130百万米ドルの転換社債発行に伴う40百万タイバーツの利息費用の計上もあり実際より減少したと説明する。また竜矢氏は、カンボジア事業における業績好調の継続、そしてインドネシア事業では、驚くべきことに事業開始早々の第1四半期で利益を計上するなど第3四半期の業績結果は、あらゆる面において前進を表していると加えた。

第3四半期利益のたまかな内訳としては、カンボジア事業（オートバイリース、農機具リース、SMEローンを合算）で最も大きく130百万タイバーツ、続いてタイGLのオートバイリース事業で約100百万タイバーツ、タイ子会社 Thanabun Co., Ltd. とラオス事業（GLL）からそれぞれ約15百万タイバーツとなった。

スリランカ上場ファイナンス企業の株式29.99%取得に加え、GLはミャンマーにおいてマイクロファイナンス企業 BG Microfinance Myanmar Co., Ltd (BGMM) の買収、更にミャンマーの大物実業家で、同国最大規模のアルコール飲料製造販売会社 Myanmar Distillery Company Group (MDC) のオーナー且つファイナンス会社Century FinanceのオーナーでもあるAung Moe Kyaw氏との提携により、同国市場にて様々なファイナンスサービスの提供を行う本格参入を進めている。

積極的な他地域市場への進出のための資金調達として、GLは先日、私募による追加転換社債総額70百万米ドルの発行を決定した。50百万米ドルを戦略パートナーであるJTAに発行、20百万米ドルをスリランカの関連企業であるCreation Investments Sri Lanka (Creation SL) に発行、3年満期、株式転換価格は一株あたり70タイバーツとなっている。

以 上